佐原の街並み

日本の源流再発見 File 3

千葉県香取市佐原　**利根川水運で栄えた商業都市**

城下町の佐倉、成田山の門前町成田、漁港・港町で磯めぐりの観光客でもにぎわった銚子とともに、日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の街並み」として認定された佐原は、利根川水運で栄え、江戸優りと呼ばれる独自の文化を開花させました。当時をしのばせる街並みは、今なお人々をひきつけてやみません。

「江戸優り」の文化を今に伝える

千葉県北部に位置する香取市佐原は江戸時代、「東の灘」とも呼ばれて発展した酒造業をはじめとする多くの商家が軒を連ね、大いに繁栄しました。戯(ざ)れ歌に「お江戸見たけりゃ佐原へござれ、佐原本町江戸優(まさ)り」とうたわれたほど。その経済力と、東国各地の物資を江戸に運ぶ大動脈として発達した利根川水運を使って多くの職人が江戸から呼び寄せられ、江戸に優るとも劣らない文化が花開いたのです。

今も続く「佐原の大祭」で町をひきまわす山車(だし)行事も、その一つで、重要無形民俗文化財に指定されています。毎年7月の八坂神社祇園祭には10台の山車が、10月の諏訪神社秋祭りには14台の山車がひきまわされます。総檜(ひのき)造りの山車を彩る彫刻はすばらしく、当時の財力がうかがわれます。佐原の山車の大きな特徴は、身の丈5メートル近くある大人形が最上部に飾られていること。神武天皇や菅原道真、浦島太郎など、色とりどりの巨大な人形が飾られ、人々の目を楽しませています。山車は通常それぞれの山車庫に収められていますが、八坂神社境内にある「水郷佐原山車会館」に行けば、この豪華絢爛(けんらん)な山車を間近に見ることができます。なお、佐原の山車行事を含む全国各地33件の「山・鉾・屋台行事」は、2016年末ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

伊能忠敬記念館

この山車がひきまわされるのが、佐原の中心を流れる小野川の両岸です。

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.

▲ 伊能忠敬記念館
忠敬が伊能家に婿養子に入って以降の半生や数々の伊能図を展示・紹介しています

▲ 樋橋
伊能忠敬記念館と旧宅の間の小野川にかかる橋。橋の下の樋（とい）からあふれる水音にちなみ「じゃあじゃあ橋」と呼ばれています

▲ 水郷佐原山車会館
「佐原の大祭」でひきまわされる24台の幣台（やだい）のうち、夏・秋の祭りから1台ずつが常時展示されています

▲ 伊能忠敬旧宅
伊能忠敬が17歳から50歳までを過ごした家で、国の史跡に指定されています。母屋は忠敬自身の設計といわれています

この道は、山車が通るため電線の地中化はもちろん、並木の柳も道側の枝は切り払われ、川側のみに枝が伸びるよう仕立てられています。川沿いには、1793（寛政5）年に自身が母屋を建てたと伝えられる伊能忠敬旧宅をはじめ、古い建築物が多く残っています。新築や改装された家も、多くが景観に配慮しており、歴史的な街並みを残しています。美しい街並みとこのような取り組みが評価され、佐原の中心部は1996年関東で初めて、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

伊能忠敬といえば、実測日本地図を初めて作った人物で、佐原の偉人としても知られています。その功績を称（たた）え、多くの国宝を含む関係資料を展示した「伊能忠敬記念館」では、現在のような計測機器がないなか、きわめて緻密で正確な地図を作り上げた苦労と技術力に、驚かされます。佐原を訪れたら、ぜひ訪ねたいスポットです。

ココに注目

佐原の散策はのんびり歩くのも良いですが、「舟めぐり」もオススメ。川面から眺める街並みは、歩きとは一味違う趣があります。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた千葉県には日立産機システム 習志野事業所があります。日立産機システムは日立製作所の創業製品であるモーター事業を継承、加えて空気圧縮機や変圧器などの幅広い産業機械分野の製品製造からサービス・ソリューション提供までを担っています。

株式会社 日立産機システム 習志野事業所　千葉県習志野市東習志野7-1-1
http://www.hitachi-ies.co.jp/

All Rights Reserved,Copyright ©2017,Hitachi,Ltd.